

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	社会のよき形成者となるため、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求し、勤労を尊び、郷土を愛し、人間性豊かな、気はつらつとした『新しい時代を主体的に切り拓く若人』を育成する。
(2) 現状と課題	下北の全域から生徒が集まっており、それぞれの地域性を持ちつつも、勉学や部活動を通じて充実した高校生活を送るため努力する生徒達である。また、広く社会に目を向け、勤労貢献でき、社会に参画する一員として活力ある人材の育成および工業技術者としての資質を備えた人材の育成を目指している。
(3) 重点目標	1 学習指導の充実(確かな学力の育成) 2 生徒指導の充実(豊かな人間性の育成) 3 キャリア教育の充実(自己理解・自己管理能力の育成) 4 開かれた学校づくり(保護者・地域との連携・積極的な情報発信)
(4) 結果の公表	評価項目、結果の内容等をまとめた資料を作成し、PTA総会で補足説明を行い公表する。さらに、本校ホームページでも同様の資料を公開する。

学校整理番号	38
学校名	青森県立むつ工業 高等学校
全日制の課程	
自己評価実施日	令和6年1月22日(月)
学校関係者評価実施日	令和6年1月31日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成		
学校評議員	4名	PTA会長 1名
PTA副会長	3名	いじめ防止専門員 1名
計9名		

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導	①個々の能力・適性に応じた指導を実践し、自ら学ぶ態度の育成を図りながら深い学びを通して確かな学力を身に付けさせる。 ②ICT教材に関する校内研修およびタブレット端末を活用した研究授業を行い、実践事例を共有する。	①各教科・科目において協議会等を開催し、生徒の学びの達成度を詳細に確認・共有し、学習成果における適切な指導を行うことができた。 ②基礎学力向上と生徒の自学自習の習慣を根付かせるため、タブレット端末を活用した。	A	①専門教科に対する取組みや設備が整っており、職員別の意欲も高い。 ②タブレット利用についていけない生徒に対しての対応はどのようになっているのかが気になった。	①生徒の個に応じた対応として、教科担当、HR担任が協議会等を企画し、生徒の身に付けさせるべき力について検討し、指導方針を決定する取り組みを行う。 ②タブレット端末を活用し、生徒の進捗状況や苦手分野に応じて個別に学習プランを作成し、適切な教材や課題を提供する。
2	生徒指導	①基本的な生活習慣を身につけさせ、自己指導能力を育成する。 ②自らの判断で健康的な生活を実践しようとする力を育てる。	①生徒は基本的な生活習慣が確立されており、充実した学校生活をおくることができている。 ②生徒の状況に応じ、SCやSSWを活用しながら対応することができたが、情報共有が不足したと感じる場面もあった。	B	①生徒の積極的な姿勢、挨拶や態度がよく素晴らしい。 ②いじめ対策としてアンケートを実施しその結果を元に対策を検討しフォローが確実である。	①特に長期休業明けは生活態度が崩れがちであるため、休業前後は特に呼びかけを行う。 ②いじめに関して、生徒が悩みを打ち明けやすい環境を構築し、早期発見および対応に努める。また、生徒に関する情報について、教職員が共有しやすくなるよう働きかけ、迅速に対応する。
3	キャリア教育	①「なりたい自分探し・自分づくり」を生かし、進路目標に向かって努力することで目標を100%達成し、将来、社会的・職業的自立ができるよう必要なキャリア教育の推進を図る。	①求人票をクラウドデータベース化し、家庭でもをみることができるようにした結果、進路先の決定を比較的スムーズに行うことができた。	A	①進路指導部と生徒・保護者との対話結果を担任との情報共有化が実施されている。	①ICTをより一層導入・活用し、手軽に生徒が進路指導部や進路情報と接点を持てるようにする。ホームルーム活動を利用して、求人票や上級学校のホームページ、資料の見方について説明する機会を設ける。
4	開かれた学校づくり	①社会の変化や産業の動向等に対応しつつ、地域企業および各産業界との連携を図る。 ②本校教育活動の参観および中学生を対象とした個別の相談会等、本校を知ってもらう場を企画する。	①3日間にわたり地域企業の協力の下インターンシップを実施できた。コロナ禍以降久々の実施であった。 ②生徒の研究発表会の取り組みについて生徒の頑張りや指導された先生の凄さを感じた。	B	①公開授業などオープンな形で実施されており好感が持てるが、一般の参加者が少ないように思われる。外部でのアピール方法など積極的にすべきである。	①インターンシップの実施方法等について継続的に検討していく。 ②各学科において、地域企業との共同開発および交流といった事業を、地域のニーズを確認しながら発展させることができないか模索する。

(11) 総括	生徒や保護者に学校の運営や教育方針について透明性を持って情報提供し、定期的な保護者会議やアンケートを通じてフィードバックを収集し、生徒の状況や保護者の期待を把握した上で、学校の目標に沿った教育活動を全教員が共通の理解のもとで進める。また、地域の主要産業や企業との連携を強化し、学生に実務経験の機会を提供し、産業のニーズに即した専門的な教育を実施する。さらに、生徒の進路選択や就職活動をサポートするために、キャリアカウンセリングやアドバイスを提供し、将来のキャリア選択に向けた理解を深め、自己実現を支援する。
---------	---